

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会参画実習2【企業課題型】(Practice in Social Participation 2)	授業コード	A031189
担当教員名	鈴木 照夫、吉村 充功、高見 大介、泉 丙完、市田 秀樹	科目ナンバリングコード	A20204
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	全学部 必修	単位数	1
履修上の注意または履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・人間力の育成、就職に重要な科目ですので、積極的に受講して下さい。 ・本科目には「キャリア開発プログラム」クラスと「企業課題挑戦型プログラム」クラスがあります。履修登録クラスを間違わないように注意して下さい。 ・「企業課題挑戦型プログラム」は受講上限が20名程度です。前期とは異なりますので、受講生を新規に募集します。 ・「企業課題挑戦型プログラム」は、人間力育成センターが主管となって実施する授業です。 ・「企業課題挑戦型プログラム」は、課題解決型(PBL)授業です。大変やりがいのある実践活動を行えますが、負荷もかかりますので、安易な気持ちで受講することのないように注意して下さい。 ・企業(顧客)との直接のやりとりが頻繁に発生しますので、日本語力の不十分な留学生の受講は困難です。 		
受講心得	<ul style="list-style-type: none"> ・企業(顧客)への訪問などが多くあります。また、授業には外部協力者(企業、NPO)が参加します。社会人と同様の扱いを受けますので、無遅刻・無欠席で受講して下さい。 ・ワークショップ時や外部訪問では、ディスカッションや作業、取材などに積極的に参加して下さい。受け身の姿勢では意味がありません。 ・企業課題に対して、企画提案・プレゼン・動画制作を行います。授業時間だけでは時間が足りませんので、チーム内で時間調整の上、課外も有効に活用して下さい。そのため、今期の履修科目数が極端に多い学生や部活動等の課外活動が多い学生は時間のやりくりが必要になりますので、その点を十分納得して受講するようにして下さい。出席するだけでは単位修得できません。 ・企業や外部協力者への訪問時は先方に失礼のない服装など、マナーに十分注意して下さい。また、企業訪問日時はチームメンバーと先方とのスケジュール調整により決定しますので、授業時間外になることがあります。 		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	『知へのステップ 第3版—大学生からのスタディ・スキルズ—』(くろしお出版)学習技術研究会 編著		
関連科目	社会参画入門・実習1・応用、人間力概論、就職講座、就職活動実践講座など		
授業の目的	<p>「企業課題挑戦型プログラム」</p> <p>本授業では、企業の仕組み、働くとはどういうことかを理解しつつ、人間力、社会人基礎力、ジェネリックスキルを実践で向上することを目的に、「企業課題挑戦型プログラム」を実施します。本授業では、地域企業のリクルートビデオ作成にチームで取り組み、成果をあげることで、地域の雇用問題の解決に寄与することを目的とします。本実習を通じて、社会経済情勢の急激な変化に対応できる能力、自由に自分らしい生き方を選択し、目標を設定しそれを達成する力を身につけるとともに、業界のことを正しく理解するための力、自分の役割を認識し実践する力を身につけます。以上を通じて、地域企業の魅力を知り、地域創生人としての素養を身につけます。</p>		

授業の概要	<p>本授業では、大学×企業(大分県中小企業家同友会加盟企業)×NPOが一体となり、地域企業の雇用問題(雇用のミスマッチ、若者定着率向上、地元企業への地元大学からの就職率向上)の解決に向けた取り組みを実施します。具体的には、今回の授業にご協力いただく地元企業様等を対象に、学生目線で自分たちが就職したくなる3分程度の企業PRビデオの作成を3人1チームで行います。PRビデオ作成にあたり、複数回の企業取材・撮影はもちろん、事前に取材企業の現状分析や魅力の把握及び取材にむけての段取りを授業で行います。</p> <p>【取材対象業種(予定)】 ○地方自治体 ○金融機関 ○建設業 ○IT企業 ○環境関連業 ○飲食業</p> <p>【キーワード】 ○コミュニケーション力 ○ジェネリックスキル ○行動目標 ○職業観 ○企業 ○時間管理 ○提案力 ○動画制作 ○プレゼンテーション ○社会人基礎力 ○地方創生</p> <p>【過去の授業で受講生が作成した動画】 https://www.youtube.com/user/nbu1967 https://www.youtube.com/watch?v=P2Y6DMjs65c</p>
--------------	--

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション ■受講希望者に対して授業内容、課題を説明し、受講の最終決定を行います。	
第2週：ガイダンス ■改めて授業内容を説明し、授業を本格的にスタートする。 ■自己紹介 ■チーム編成 ■目標設定	
第3週：ワークショップ(1) ■企画書とは ■コンテ作成とは	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第4週：ワークショップ(2) ■取材対象の分析 ■企業取材打合せ	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第5週：企業訪問(1) ■本取材の事前打ち合わせ ■企画の1次提案(絵コンテ含む)	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第6週：ワークショップ(3) ■企画の練り直し	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第7週：企業訪問(2) ■企画の本提案	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第8週：ワークショップ(4) ■取材(撮影) or ■企画調整	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第9週：ワークショップ(5) ■取材(撮影) or ■企画調整 or ■編集作業	授業時間内だけでなくチームで編集作業を進めて下さい。
第10週：企業訪問(3) ■取材(撮影)	授業時間内だけでなくチームで編集作業を進めて下さい。
第11週：ワークショップ(6) ■編集作業	授業時間内だけでなくチームで編集作業を進めて下さい。

第12週：ワークショップ(7) ■編集作業		授業時間内だけでなくチームで編集作業を進めて下さい。
第13週：企業訪問(4) ■企業プレビューを行い、完成に向けて顧客(対象企業)とのすり合わせを行います。		授業時間内だけでなくチームで編集作業を進めて下さい。
第14週：成果発表会 ■企画及び完成動画の披露(プレゼン) ※対象企業出席		
第15週：ワークショップ(8) ■反省会 ■振り返り		
第16週：EQアセスメント ■人間力についてアセスメント評価を行う		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考	授業だけでは十分な時間が取れませんので、ホームワークがあります。授業時間以外の活動を行う場合があります(実践型教育実施枠も積極的に使って下さい)。活動場所として、人間力育成センター多目的ルーム(1号館1階)、ERC(エンジニアリングリサーチセンター)が使用できます。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①職業観：地域産業の魅力を発信することに興味を持ち、授業内容に進んで取り組むことができる。 ②時間管理：無遅刻、無欠席で授業に参加できる(規律性)。
【知識・理解】	①企業についての理解：企業とは何かを理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	①コミュニケーション力：活動を通じて、チームメンバーや企業、外部協力者に自分の意見を理解してもらうことができる(発信力)。また、相手の話や意見を聴くことができる(傾聴力)。 ②プレゼンテーション力：自分の企画、活動成果を適切にプレゼンできる。
【思考・判断・創造】	①リテラシー能力：情報収集、情報分析、課題発見、構想、表現、実行の各リテラシープロセスを実践することができる。 ②計画力：行動目標を設定し、発表に向けた計画をすることができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			20点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点	15点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			15点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点		
(「人間力」について)				

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	・各種報告書、企画書及び制作動画を評価します。(40点) ・行動計画の作成、ふり返り状況を評価します。(10点)
発表・その他 (無形成果)	・成果発表会のプレゼンテーションを総合的に評価します。(チーム評価&個人評価で30点) ・授業に欠席したり遅刻・早退せずに、意欲的に取り組んだ場合、評価の対象とします。(20点)